

衆議院議員の秘書として、追手門学院の地域連携担当者として、
北摂・茨木のまちづくりに参画してきた実績を茨木市政へ。

いばらきに、矢をはなつ！

福祉と教育の矢島、自民党推薦・最年少の新人！

『矢島ひでかず後援会ニュース』第2号目次

- 特集① 矢島ひでかずからのご挨拶 … P.1
- 特集② 事務所開きに70名ご出席 … P.2
- 特集③ 退職後50日間の活動写真 … P.2



新人 36歳

やじま
矢島ひでかず

後援会ニュース 第2号

〔編集・発行〕 矢島ひでかず後援会

〒567-0888 大阪府茨木市駅前4-2-31

TEL:072-626-5600 FAX:072-626-5505

✉ info@yajima-hidekazu.com

HP <http://yajima-hidekazu.com>

FB <http://facebook.com/yajima.hidekazu>

■特集① 矢島ひでかずからのご挨拶

この度は、『矢島ひでかず後援会ニュース』第2号をご覧いただき、誠にありがとうございます。自民党推薦・最年少の新人、矢島ひでかずと申します。私は、耳の聞こえない両親のもとで生まれ育ちました。追手門学院大学を卒業し、追手門学院大学大学院を修了後、衆議院議員の秘書として約4年、追手門学院の職員として約6年、合わせて10年間にわたり、北摂・茨木のまちづくりに携わらせていただきました。追手門学院の職員時代は、地域連携担当者として、学生のみなさんとともに茨木市北部の農業振興、中部の商店街活性化、南部の市場連携など、様々なプロジェクトに関わらせていただきました。特に、大学のクラブやサークルに所属する学生のみなさんが講師役となって、茨木市内の小学生にスポーツやアートの楽しさを体験してもらい、かつ、学生の成長にも繋げようと企画・実施した「おうてもんジュニアキャンパス」は、これまで8回開催、1,500名を超える子どもたちにご参加いただきました。また、近隣の大阪府立茨木支援学校就業体験実習生のみなさんの追手門学院への実習受け入れも、私が担当者となって新たにスタートした取り組みです。

両親ともに耳の聞こえない家庭環境で生まれ育った私が大切にしていることは、“すべての皆様の心に寄り添い、お話しくださるご意見にしっかりと耳を傾ける”ということです。これまで数多くの皆様方のご縁に助けられ、そして、支えられながら、今こうして36歳を迎えることができました。

これまでの人生を振り返った時、今度は、私がお世話になった皆様にお返しさせていただきたい、今の私に出来ることは、10年間お世話になったこの茨木市において、「福祉」と「教育」に関心を寄せていらっしゃるすべての皆様のお力になることと考え、本年10月31日付をもって母校である追手門学院を退職し、翌11月1日より毎日、市内全10駅のどこかの駅頭でご挨拶を続けています。

周囲からは「無謀な挑戦だからやめておけ」とご心配いただいております。ありがたいことです。しかし、やってみなければ、わかりません。“望みを捨てぬ者だけに、道は拓ける。”というドラマの台詞を胸に刻み、たくさんのボランティアのみなさんに送り出され、今日も元気に活動しています。

矢島 ひでかず 拝

■特集② 事務所開きに70名ご出席

12月21日(水)19:00～20:00、茨木市役所すぐの中央通り沿いにある矢島ひでかず後援会事務所(駅前4-2-31)におきまして、「事務所開き」を執り行わせていただきました。当日は、自由民主党茨木市支部長の上田嘉夫茨木市議会議員をはじめ、日頃より大変お世話になっている70名を超える皆様にご参集いただきました。冒頭、矢島ひでかず後援会長の川原俊明(学校法人追手門学院理事長)よりご挨拶させていただいた後、私、矢島ひでかずより、この度の決意表明をさせていただきました。

当初、50席をご用意しておりましたが、想定していた以上に数多くの皆様にお越しいただいたため、事務所内に入らせていただくことができず、事務所前の歩道で立ち見となった方々には、本当に申し訳ございませんでした。たまたま当日にご予定があり、お越しいただけなかった皆様のサポートもあり、こうしてスタートラインに立てましたこと、この場をお借りして、心より深く感謝御礼申し上げます。



↑ 支援者を前に矢島ひでかずによる決意表明



↑ ご出席の70名全員によるガンパロー三唱



↑ 会場に入れなかった皆様にも御礼のご挨拶

■特集③ 退職後50日間の活動写真

